



かかりつけ医持っていますか？ 「かかりつけ医」はあなたの強い味方！

みなさんは、大病院に行ってどこの診療科で診てもらうか悩んだり、どんな先生か心配になつたことがありますか？自分の病気や健康のことを一番よく知っていてくれて、何でも気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことはあなたの健康を守るためにぜひとも必要なことです。はじめから大病院に行かなくても「かかりつけ医」は病院と連携を図っていますので、高度な医療や特殊な検査を要する時は一番適切な病院を紹介してくれます。また、症状が安定したら「かかりつけ医」で診てもらえます。いざというとき「かかりつけ医」はあなたの頼りになる味方となります。



編集後記

今回のすこやかChibaで市民のための医師会は、千葉市における病児保育事業の紹介を原木先生に話していただきました。病気にかかって施設に預けることができないお子さんたちを安心して過ごせるようにする。また、保護者の方の就労支援にもつながります。気になる病気では失明原因の1位である緑内障を高見先生に、乳幼児の定期検診で確認される先天性股関節脱臼を西須先生にそれぞれ解説していただきました。ようやく秋の訪れを感じるようになりますが、季節外れの猛暑、豪雨もあります。季節の変わり目ですので、体調管理にはお気をつけください。

広報委員長 霜 知浩

郵便はがき

261-8790

料金受取人払郵便
美浜局認
7138

差出有効期間
2025年12月
31日まで

切手をお貼りに
なる必要はござ
いません。

千葉市美浜区幸町 1-3-9
千葉市総合保健医療センター内

千葉市医師会

「すこやかChiba」編集部 行

氏名 男・女 年令 歳
職業
住所 〒
Tel ()

※千葉市医師会関係者のご応募はご遠慮下さい。

市民の健康を守る情報誌

すこやか Chiba

令和7年10月15日

編集・発行／一般社団法人 千葉市医師会

〒261-0001

千葉市美浜区幸町1-3-9

TEL.043-242-1090

<https://www.chiba-city-med.or.jp/>



- 市民のための医師会
病児保育
- 気になる病気
緑内障
先天性股関節脱臼
- 暮らしと医療
補聴器



病院併設の施設で行う「病児保育」



千葉市医師会は

千葉市と協力して、病気回復期等でお子さんを保育所などに預けることができない場合にクリニックに併設した病児保育施設で預かる「病児保育事業」を行なっています。

病児が安心して過ごせる場所を提供します。

話してくれたのは
この先生

千葉市医師会 学校保健担当理事
原木 真名 医師

「病児保育」とは、どういう事業でしょうか？

病児保育は、保育園や幼稚園に通っているお子さんが、熱を出したり下痢をしたりして、普段の施設を利用できなくなったりしたときにお預かりする事業です。病児保育は、「保護者の方の子育て・就労を支援する」という使命はもちろんのこと、「子ども達が病気のときに最善の環境の中で楽しく過ごせる場所、病気でも健やかに過ごす権利を守る場所」というこどもファーストの使命も持っています。

千葉市の病児保育の特徴と、千葉市医師会との関わりについて教えてください。

千葉市の病児保育室は全て医療機関併設型です。千葉市医師会が千葉市に対して医療機関を推薦し、質の高いサービスの提供とその安定した運営に向けてサポートしています。クリニックの中や隣に病児保育室があって医師が近くにいるため、病気の初期段階や病状が急変した場合も、安心して預けられるというメリットがあります。

また、お子さん2人に保育士1人の配置で保育していることにより、手厚い保育・看護をうけることができます。

千葉市と千葉市医師会は、お父さん・お母さんが安心して子育てできる地域づくりと、子どもたちが病気になったときに理想的な環境でケアを受けられる場所の提供を目指しています。

本事業の実施状況を教えてください。

千葉市の病児保育事業は平成11年から始まり、徐々に施設数が増え、市内には現在10の病児保育施設があります。令和6年度の利用児童数は年間5,215人で、コロナ禍を除き、増え続けています。病児保育は、千葉市内在住、または千葉市内の保育所(園)・幼稚園・小学校等に通っている乳児から小学生までを対象としています。ご希望される病児保育施設の窓口で事前登録手続き後、利用の予約をお願いしています。詳しくは、千葉市病児・病後児保育事業のご案内

(<https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/yojikyoiku/shien/byouji-byougoji.html>)
をご覧ください。

ゆりかご園	中央区長洲	043-202-5511
えんじえるん	中央区千葉寺町	043-268-2234
あおいとり	中央区弁天	043-285-1157
うさぎのあな	花見川区幕張本郷	043-274-7431
ぞうさんの森	花見川区幕張町	043-306-7073
こぐまはうす	花見川区作新台	043-259-6405
ノア	稲毛区小仲台	043-290-0707
さくらっこ	若葉区桜木	043-231-0654
パンピーノ	緑区おゆみ野	043-293-2503
ポピンズルーム	緑区おゆみ野中央	043-226-9920

けでなく、子育て支援のステーションのような役割を果たしたいと考えています。預かった時のお子さんの様子をお母さんたちに伝えたり、お母さんやお子さんの悩みを受け入れたりする、そういう相談を受ける場所としての広がりができればと思っています。

最後に市民の方へのメッセージをお願いします。

病児保育施設では、保育と看護を融合した「保育看護」という対応を行っています。保育士も看護の勉強をし、看護師も保育の勉強をして、子ども達が安心して楽しく過ごせるような環境を整えております。

普段預けていない保育施設にお子さんを預けるのはご不安かもしれません、スタッフ一同、万全の準備をしてお待ちしておりますので、安心して病児保育室をご利用ください。

定員数が限られているため、いざというときにご利用になれない場合もあり、申し訳ないです。いつも満室というイメージがあるかもしれません、決してそのようなことはありませんので、また次の機会もお申込みをしてみてください。

本事業の運営上の課題と展望をお聞かせください。

感染症の流行などにより、利用者数の波が激しいことが課題です。利用者数が少ないときでも患者さんが来たら受け入れられるようスタッフを揃えておく必要があるので、施設の運営側としては、人員的にも財政的にも厳しい面があります。一方、まだ病児保育施設数が十分ではない地域があり、その偏りをなくすために新しい病児保育室が必要とされています。施設が増やせるように千葉市にもバックアップしてほしいですし、市民の方々にも応援していただきたいと思います。

そして、病児保育施設が単に病気の子どもを預かるだ

すこやかChiba(vol.58)アンケート結果から

- ①かかりつけ医をお持ちでしょうか?
■ある 436(82%) ■ない 92(17%) ■無回答 2(0%)
- ②すこやかChiba(本誌)はお役に立ちましたか?
■とても参考になった 240(45%) ■参考になった 271(51%)
■どちらともいえない 15(2%) ■あまり参考にならなかった 4(0%)
■無回答 0(0%)
- ③もの忘れチェック事業をご存知でしたか?
■はい 97(18%) ■いいえ 425(80%) ■無回答 8(1%)
- ④花粉症の症状はありますか?
■はい 273(51%) ■いいえ 255(48%) ■無回答 2(0%)
- ⑤低用量ピルをご存知でしたか?
■はい 217(40%) ■いいえ 309(58%) ■無回答 4(0%)



今回Dr.チバが散歩した場所
●YohaSアリーナ～本能に、感動を。～
V.LEAGUEチーム「千葉ドット」の本拠地として知られ、バドミントン、フットサルなど様々なスポーツが楽しめる設備が充実しています。詳しい情報は <https://www.sc-chiba.com/shisetsu/chibapark/>

40歳を過ぎたら、緑内障予防のために眼科で検査を

緑内障

シニア世代でよく見られる目の病気には「白内障」「緑内障」「加齢黄斑変性」があります。特に開放隅角緑内障は、かなり進行するまで自覚症状が出にくく、気づきにくい病気です。一度失った視野は回復できないため、早期発見と治療の継続がとても大切です。

答えてくれたのは
この先生

千葉市医師会 眼科医会
たかみ あさこ
高見 朝子 医師



■ 緑内障とは？

緑内障は、何らかの原因で視神経が障害され視野が狭くなる病気で、眼圧の上昇が原因の1つといわれており、中途失明第1位の眼疾患です。

一方で日本人には眼圧が正常範囲内でも緑内障になる「正常眼圧緑内障」が多くみられ、視神経の脆弱性や血流不足なども原因として考えられています。

■ 隅角の広さにより2タイプに分類

角膜と虹彩の接合部分で眼内を循環する房水の排出路に当たる部分を隅角といいますが、緑内障の病型は、隅角が狭い閉塞隅角緑内障と隅角が広い開放隅角緑内障の二つに大別されます。

■ 閉塞隅角緑内障

慢性型と急性型(急性緑内障発作)があります。特に急性型は60歳以上の遠視の女性に多くみられ、急激に眼圧が上昇し、目の痛み・頭痛・吐き気・急な視力低下・瞳孔異常・充血などの症状が現れます。放置すると数日で失明する危険もあります。発作予防には早期の白内障手術や、感冒薬・抗不安薬・鎮痙剤など発作を誘発しやすい薬(緑内障禁忌薬)を避けることが有効です。

■ 開放隅角緑内障

男女を問わず40歳以上に多く、強い近視や遺伝、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群、眼外傷歴はリスクファクターと言われています。「正常眼圧緑内障」は開放隅角緑内障に含まれます。自覚症状として視野欠損を感じることはほぼなく、なんとなくぼやける、見づらいという程度のことが多くあります。視野の異常に気づいた時には、かなり進行している場合もあります。

治療は点眼治療が中心となります。点眼薬によつても充分に眼圧が下がらない場合や視野障害が進行する場合にはレーザー治療や手術を行うことがあります。たとえ自覚症状がなくとも眼科で視野異常を指摘されいたらしっかり治療を継続しましょう。

■ リスクが増す40歳以上は検査を

40歳以上の約20人に1人は緑内障だと考えられています。そのため40歳過ぎたら一度は眼科検診を受けることをお勧めします。検査で早期発見し適切な治療を続けければ、生涯にわたって視力を保てる可能性が高まります。

赤ちゃんの先天性股関節脱臼は、早期発見と治療が重要です

先天性股関節脱臼

幼児期までは、脱臼していても痛みはなく、歩行もできるので、発見されにくい疾患です。放つておくと就学してからの治療が大変ですので、乳児期に股関節検診を受けておきましょう。

答えてくれたのは
この先生

千葉市医師会 整形外科医会
さいす たかし
西須 孝 医師



■ 先天性股関節脱臼とは？

先天性または生後数か月以内に生じた股関節の脱臼です(図)。先天性でないことが多いため、学術的には「発育性股関節形成不全」と呼ばれています。一般の方には、よりわかりやすい「乳児股関節脱臼」という病名が用いられています。



図
6歳女児
右股関節脱臼

■ 症状と放置した場合の経過

乳児期には、股関節が開きにくかったり、開閉するときに音が鳴ったり、大腿のしづが左右非対称だったりと様々な症状がみれます。はっきりした症状のない場合もあります。両側が脱臼している場合は気付かれにくいです。歩行開始時期はやや遅めですが、他に合併疾患がない限り歩行不能ということはありません。歩くようになると、歩容異常がみられることが多いのですが、正常と見分けがつかない場合もあります。幼児期に痛みを訴えるケースはほぼありません。学童期以降では様々な症状が徐々に出現します。

■ 診断

千葉市では、上記症状に家族歴、性別、分娩時の体位を加えて脱臼の可能性を点数化し、高点数の場合はX線検査を行うこととなっています。小児整形外科専門医は、X線検査では描出されない大腿骨頭の軟骨の輪郭と位置を評価するため、超音波検査を行っています。本邦では脱臼例の16%が1歳以降で診断されています。

■ 治療

生後数か月以内に診断されれば、装具で治療するのが一般的です。この方法で整復されない場合は、入院して両脚を牽引して整復する治療を行います。それでも整復できない場合は、手術が必要となります。早期治療が、とても大切な疾患です。

